

修徳まち通信

発行所
修徳自治連合会
修徳まちづくり委員会
発行責任者 平井 常 夫
編集責任者 小西 宏 之
印刷所 洛東印刷株式会社



まちづくり憲章(第2部・町並み編)完成

アンケートで支持される

修徳学区民が創っていく町並み

平成18年度に「まちづくり憲章(第1部)」を作成して以来、マンションの建物が、町並みに調和したファサードとなった。さらに、各町内で新築、改築、増築される町家を、町並みに調和するデザインにする仕組みをつくるため「憲章(第2部・町並み編)」を発行した。

国土省の助成金でまちづくり憲章作成

昨年度から、「まちづくり憲章(第2部・町並み編)」(以下「憲章(町並み編)」と略称)の作成にあたって、建築の専門的な部分について、京都府建築士会の支援を得ることができた。さらに、国土交通省の「住まい・まちづくり担い手事業」から200万円の助成金

がつけいた。

修徳町並み文化財 伝統の大切さ認識

「憲章(町並み編)」は、町名の由来や、平安時代から明治維新までの歴史のなかで、この学区が政治と文化の中心であったことを、歴史的人物の史跡とともに、「憲章(第

1部)」よりも詳しく具体的に記載した。室町時代以来の町と町組(現在の連合会)の自治の伝統とともに、誇りをもてる地域に、住む喜びを感じていただきたい。「歴史」は過去のものではなく、DNAのように積み重なって、絆の強いコミュニティや暮らしのあり方を、この学区に根づかせてきた。「修徳町並み文化財」

町家の変化進化にも注目したい

出格子と虫籠窓に象徴される江戸明治型町家、ガラスの窓や障子の採用で、格子に替わる金属棒の列と窓下の重厚な石板に象徴される大正昭和型は、それぞれにすばらしい生活文化の進化の表現である。その背景には、素材の革新による変化がある。時代とともに替わる美的感覚の変化に注目

には、この学区民の生活史が刻みこまれている。大切に守っていききたい。

している。ここで、将来どのような時代になっても、その時の学区のみならずの美的感覚の変化に対応できるツールと仕組みが欠かせない。

京大大学院内教室
三次元CGのツール

京都市のまちづくりの研究をされている。その中の日本の都市研究を京都の、しかも、修徳学区を選んでいた。修徳全体の町並み写真と、三次元

町並みCG活用

3次元CGモデル活用

目をみはる！参加者

ワークシヨップ開催 スクリーンに町並みが動く。建物がはめ込まれどでもないのか」という場合もあるし、「こんな現代的な西洋の建築家の家なんか単体ではよいけれど、きつと合わないね」と思っていると、「あれっ！、なんかよく合っているな」とつぶやくほど、意外に合う。これが、町並みのなかで、単体の建物が、町並みに調和するかどうかを、ツールでみんなで確かめた状況である。3次元CGなんてすごいなと参加者は感じた。

CG写真が、これから建つ「家屋」が町並みに合っているか、素人でも判断ができるツールが、コセンサス形成に欠かせない。

アンケート集計表

「町並みアンケート」の回答率は、戸建ての住民は58.4%と5割を超え、マンション住民が25.9%と低く、全体で46.9%にとどまった。

町の所在	世帯数	回答数	回答率%
東 部	142	99	69.7
中 部	189	112	59.3
西 部	171	82	48.0
戸建小計	502	293	58.4
個人加入M	79	38	48.1
全戸加入M	195	33	16.9
M 小計	274	71	25.9
合 計	776	364	46.9

江戸明治・大正昭和の町家／美しい資源・背景に変化

典型的な明治型の町家虫籠窓とその改造型



阪邸



野村邸

三階建の大正型でも、明治中期の建築。大正昭和型町家



今井邸



梅津邸

平成の町家と評価



小谷邸

これが去る1月15日約30名の学区民が参加したワークシヨップの風景である。



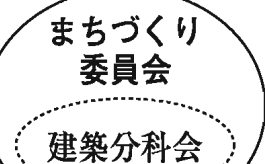
この空き地に和風な平成の町家、オランダの建築、郊外住宅など、はめ込む。



地域内で建築活動がある場合の協働チーム



学区全体の方針や取り組みの推進



↑ 支援

↑ 支援

専門家(京都府建築士会、京大門内研)、行政、京都市景観・まちづくりセンター

リフォーム強要にも対応

まちづくり委員会の建築分科会ができた。リフォーム詐欺や強要に遭ったとき、「この地域は、リフォームが必要かどうかを建築分科会が判断することになっている」と、はっきりと断られる。

学区民のみなさんは、きっと安心して対応ができる。そして、地震災害から命を守るために、耐震相談も、ぜひ、していただきたい。そして、町や通りの、地域全体の価値を高めるために、建物のデザインも無料で相談してほしい。無料相談会の時以外に、急ぐ時は、土日祝を除く9時から17時の間で下記へ。

まちなみ部長 荒川晃嗣 ☎371-7200 [部長が京都府建築士会の一級建築士に連絡し、相談の日を打ち合わせます。]

町並みは生活文化水準の高さの表われ

美しい町並みは、単なる形・色・素材などの調和にとどまらず、地域住民の町への意識の高さや生活文化の水準の高さの現れとして実現されるものです。地域の安全性、子どもたちを育てる環境、住民の健康、お年寄りや障害者への福祉などの生活上の諸問題を、力を合わせて共に解決していくコミュニティが形成されていることが、町並みにもにじみ出てくるのです。『修徳まちづくり憲章（第2部・町並み編）』P.17より]

レオパレス21 町並みに合う建物へ

建築分科会は、将来の町並みを学区民みんなが関わって創っていかうこと、具体的な仕組みを提案し、アンケートで絶対多数の賛同をいただいた。

たまたま、月見町で、レオパレス21が、マンションマンションを建てる計画があり、町内会が工事契約や管理契約を締結する話し合いを続けられてきた。

建築分科会も、この機会に第1回を試ししようということで、8月10日(月)と、11月4日(水)のそれぞれ午後7時30分より開催した。町内会長さんと建物の近隣の人たち、自治連合会平井会長、まちづくり委員会小西委員長、まちなみ部会荒川部会長、支援していただいている専門家の京都府建築士会、京都市都市づくり推進課、景観・まちづくりセンターが協議に参加した。当初から、京都市市街地景観課が京都の

景観政策に沿って指導があったので、万寿寺通に面した建物は、二階建てと町並みに配慮していた。庇を瓦風にするなど、そして、バルコニーがインナーになっていなかったため、それをインナーにすること、そして、4階建ての部分も、バルコニーの腰壁と、隣室との境界のボードの色彩が白っぽかったため、ブラウン系統を使うよう申し入れ、グレイブラウン系統になった。今後、建築については、すべて、このような協議を実施することになる。

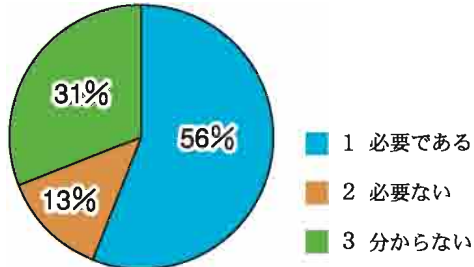
建築相談窓口も実施

2月6日(土)に、建築なんでも相談を実施し、隣地のビルの高さについての1件の相談があり、京都府建築士会の箕先生が対応してくれた。

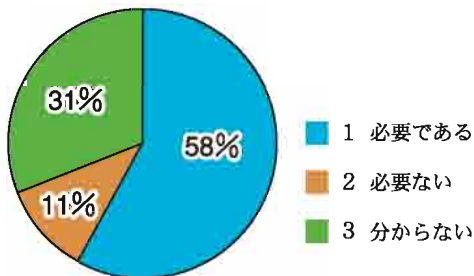
建築分科会開催 (月見町)

庇や壁の連続性
通りの連続性は、美しい町並みには欠かせない。庇や壁、窓、軒先の幅などが揃っていると、美しさを感じる。同時に、それは住民同士の絆をつくる環境でもある。回答者のみなさんよく「存して、連続性が「必要」が56%

問9① 通りの連続性の大切さ



問9② 連続性の消滅へ



%と過半数を超えた。ただ、専門的な部分があるのか、「分からない」が30%を超える。**連続性消滅への対応**
建物が売られてなくなり、空地や露天駐車場になると、町並みの連続性が損なわれる。塀やゲートなどの設置で対応が必

要となる。これも、回答者のみなさんが、日常的に歩いて感じておられるところだろう。「対応が必要」とされた回答が58%と、これも、過半数を超えた。問9の「分からない」という回答が、すべて、30%を超えており、町並みについては判断がむずかしいか。



話し合い前

分科会后

格子

「角」「どんつき」の影響

最近、時間置き露天駐車場が氾濫して、「角」の町並みの乱れが気になりはじめた。しかし、「どんつき」につい

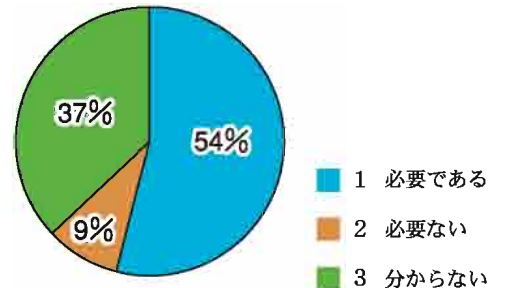
すぐれた機能 現代感覚に通用

では、通りの範囲からは、隠れた位置の場合もあり、気がつかない場合もある。回答者のみなさんは、よく気がついておられるようで、「必要である」が54%となった。

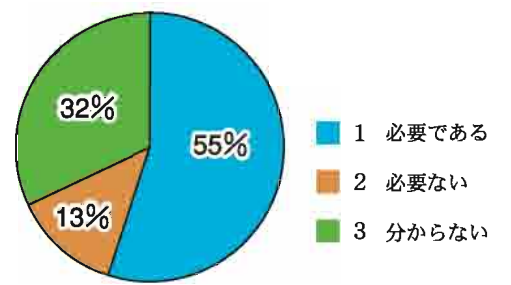
歩いて見る視点大切

町並み連続写真を見て驚くのは、4階以上のビルやマンションがすぐく

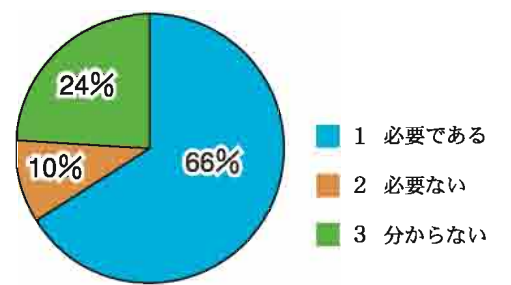
問9③ 角、どんつきの景観に配慮



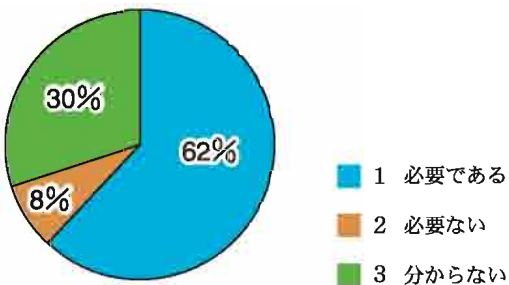
問9④ 空の見え方に配慮



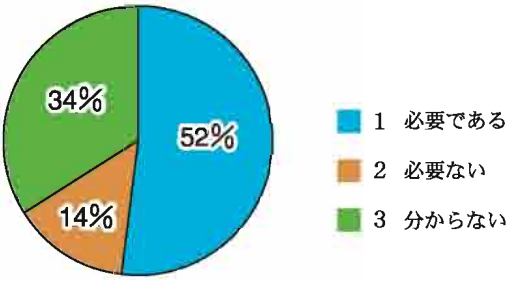
問9⑤ 自然となじむ町並み緑地



問9④ 歩いて見る視点で考える



問9⑤ 暮らしに根づいた視点



多く、たとえば、1階2階部分に庇などをつけていても、中高層のマンションが町家を挟んで続いていると、全く、町並みが崩れていると感じる。しかし、歩いてみると、町並みの連続性を感じる場合もある。「歩いて見る視点で考える」のも「必要である」との回答は62%と高い。「暮らしに根づいた視点」では、格子は内側から外が見え、外からは、中は見えにく

い。防犯上もいいし、町内の人の動きも、感じられる。これも「必要である」が過半数を超えた。「空の見え方に配慮」することや「自然となじむ町並み」で緑を取り入れることには関心が高い。五条通からの清水の五重の塔と東山の緑と空の美しさは、この地域の借景でもある。「必要」の回答が55%、66%と高いのも「自然」である。

50% 以下の回答 設問が専門的？

遠望 分節 細部

問9⑥の「細部を丁寧に」については、玄関ポーチ、室外機、自動販売機などが例にあがるが、「細部」と聞いただけでは分かりにくい面があったのか、⑦の「大きい建物は小さく分節」は、建築の専門分野に入りこんだように感じられたか、⑩の「遠くからの眺め」も、やや、高層ビルに遮られていても、分かりにくかったのか、この3問は「必要」が50%を割り、「分からない」が50%に迫った。

政治と文化の中心地

鎌倉初期の和歌と宗教

今生きる自治の伝統

『修徳まち通信』第3号で、町名の由来や平安末期から鎌倉初期にかけて、政治と文化の中心地であったことをお知らせした。最近、活字がなかなか読まれない時代なのか、アンケートの「問5」の「歴史」に対する

修徳の誇れる歴史

高倉天皇や安徳天皇の御所が東洞院松原に、千載和歌集の藤原俊成の和歌所が室町松原に、そして、鎌倉時代の先進的な浄土系の仏教の親鸞の結婚時と、晩年の居所、関白九条兼実の花園別邸が万寿寺西洞院に、それぞれあった。そして、西洞院、室町、五条、万寿寺に囲まれた地域は、源氏物語の「夕顔」のモデルとなった村上天皇第7皇子具平親王の大邸宅であった。

明治2年、日本で最初に授業をはじめた修徳小学校も、その後の京都の

小学校の開校も、室町時代以後の下京、上京の町と町組の自治の伝統があったから、他都市に先駆けて、できたのである。同じ問5の「自治の伝統」については、「知っていた」回答が、50%、「知らなかった」も50%ちょうどだった。「歴史」も「自治」も同様に、「知らなかった」と過去形なので、「まちづくり憲章（町並み編）」で、ご理解が得られると思う。

下京図書館で借りた本

蘇民将来之子孫也の意味

岩戸山の標をよくいたたく。そこには、赤いお札がつけてあって、「蘇民将来之子孫也」と書いてある。その意味を以前は知らなかった。また、修徳学区の町名に「悪王子町」があり、この悪王子が誰のことかわからなかった。調べようとしている時、図書館で、脇田晴子氏のこの本を見つけた。それには『蘇民内伝』（祇園社の根本教典）から引用さ

れた牛頭天王の物語が書かれている。北天竺のまかだ摩訶陀の大王、牛頭天王は、かつて天刑星であった。頭に黄牛の面をいただき、夜叉のようである。その怪異な容貌のために后宮がみつからない。そこで、娑羅羅龍宮へ妻探しに行く。龍宮までは八万里だが、三万里も行かないのに、車馬が疲れてしまった。夜叉国の魑魅魍魎の類の巨旦大王に宿む。後に巨旦大王を亡ぼす。蘇民将来には、「自分は未代に、疫病を蔓延させるため、八王子（悪王子）たちと、国に乱入するであろう。慈愛深いお前の子孫は書さない。」と言う。これが「蘇民将来之子孫也」の効用なのである。

祇園祭（祇園御霊会）の当初の意味が、疫病を蔓延させる神（牛頭天王）を神輿に乗せて京都の街中へ招待し、芸能歌舞や供え物で歓待して、満足したと見るや、神輿ごと川や海へ流すのである。それを、お旅所へ歓待して、疫病を鎮める神として、自分たちが「蘇民将来の子孫」として、神観念を転換するのだと解釈している。紙数の関係で、祇園祭の歴史までは紹介できなかったが、お許しをいただきたい。（文責 小西）

宝は人の絆と安全に集中

地域活動に関心もつ

問12は「連合会の活動（地域の祭り、防災、防犯など）に参加したいと思うか」については、「どちらかと言えば参加したい」は20%だが、「どちらかと言えば参加しない」は48%と高く、なんとらかの形で参加したい

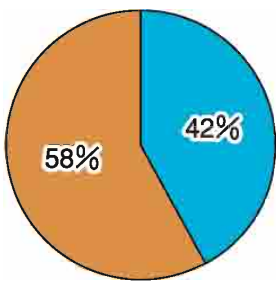
意思をもっている回答者は、68%に達する。仕事を持っている人、会社からの帰りが夜遅くなるなど、いろいろの理由が「参加したい」と断定するのを妨げているのかもしれない。参加できない場合

でも、その事業の情報を、広報誌『修徳』で体感してもらって、参加できる機会に参加してほしいと考えている。

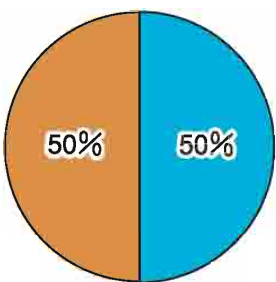
「町の宝」、「修徳らしい町並みを創りあげるうえで役立つ資源」を聞くこと、「4. 風習、祭祀」

「11. 利便性」に回答が集まった。なかでも、「10. 安全安心健康」「2. 人とのつながり」に250件の回答が集中した。

問5（歴史）



問5（自治）



修徳自治連合会会長 平井 常夫

まちづくり憲章の完成に感無量

今年度で会長の職を退くと申しあげてまいりましたが、とくに、将来の修徳学区を、学区住民みんなで創りあげていく仕組みをつくった『まちづくり憲章（第2部）』が完成し、ひとつの節目がつけられたことに、大きな喜びを感じております。

項目をもっと詳しく具体的に表現し、さらに、未来の時代の変化にも対応できる内容の『まちづくり憲章（第2部）』ができていないか、打診と指示をいただきました。

幸いなことに、次期会長である櫻田現筆頭副会長をはじめ、各副会長、各種団体長、町内会長のみなさん、直接策定作業に

平成18年の『まちづくり憲章（第1部）』の完成後、その

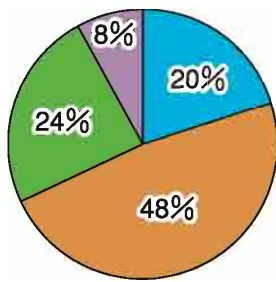
あたったまちづくり委員会のみなさん、ワークショップやアンケート、会議にご協力をいただいた学区住民のみなさんのご尽力の結果、2月下旬完成の『まちづくり憲章（第2部・町並編）』として完成し、3月末には『まちづくり憲章（第2部・安全安心編）』が完成予定になってお

ります。

このような修徳学区民の自主的な活動があつてはじめて、行政と専門家のみなさん、すなわち、京都市都市づくり推進課、景観・まちづくりセンター、京都府建築士会、三次元CGなどの提供の京都大学大学院内教授の建築学教室、これらのみなさんのご支援が、さらに、内容の水準を高めていただけたと考えております。

また、国土交通省の資金面でのご支援もあり、これらすべての方々に、ここからお礼を申し上げます。

問12 連合会の活動



- 1 参加したい
- 2 どちらかと言えば参加したい
- 3 どちらかと言えば参加したくない
- 4 参加したくない

問7 町の宝



幼児期の思い出と地名

70年以上も前、4、5歳の頃、問之町松原稲荷の花咲稲荷社に祖父が神主をしていた。よく土産をもつてやって来た。溝のない所を「タヌキにだまされ、溝だと跳んだ

とたん、すし折を落とすととられた」などと話した。脳出血でなくなるまでは、私も稲荷社へ行き、北隣の子とよく遊んだ。この社は修徳とも関係があり、元祿の頃、新玉津

島社の芭蕉の俳諧の先生の北村季吟の、そのまた先生の松永貞徳が、自邸に祀ったのが始まりで、自分の縁と地名の由緒が繋がると、なかなか、おもしろくなつかしいものだ。（地名研究会 小西）

編集後記

アンケートの集計結果の報告特集をお届けしたアンケートの自分析して次の機会に広報紙でお知らせしたい。同時に町並み創造の仕組みの意義をお知らせした。